

# 館報 教育記念館

No.80  
平成25年3月 発行



子どもの目  
自然不思議発見写真展  
～県内小学生～

富山県中学校美術展  
～県内中学生～



## 主な内容

- ◎教育時評 「桜餅は、ほろ苦い」  
富山県教育委員会生涯学習・文化財室 室長 平野富佐 …………… 2
- ◎特集「富山県小学校教育 140年の歩み」 …………… 3
- ◎後期恒例展から …………… 4  
「みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」  
「教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」「富山県中学校美術展」  
「アイデア・ロボット・フェスタ」「版造形教育展 秀作回顧展」
- ◎わが校の歴史から …………… 6  
★射水市立新湊西部中学校  
★射水市立奈古中学校
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 …………… 8  
平成25年度の展示計画 あとがき



発行所／公益財団法人 富山県ひとつくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1  
TEL(076)444-2000 FAX(076)444-2001 E-mail:toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp  
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076)433-2770)  
発行人／富山県教育記念館 館長 伏黒 昇 印刷所／いおさぎ印刷株式会社



## 桜餅は、ほろ苦い。

富山県教育委員会生涯学習・文化財室  
室長 平野 富佐

### 季節、到来

年1回の客ではあるが、馴染みとなった菓子材料店で、塩漬けの桜葉、道明寺粉など、桜餅100個分の材料を買い求めるのが、25年近く恒例となっている。材料が揃えば、当然、桜餅を作るわけだが、これが意外に簡単。台所に、ざるや圧力鍋をひろげたとて、今年はちょっと硬かったかな、色は薄いけど味はまあまあ、など一人悦に入って重箱につめこむまでは、なかなか楽しい時間となる。反省が翌年に反映しないのと、素人の悲しさで、出来は、まあ評価外としていただきたい。

### 桜餅が苦いわけ

4校目の赴任先は、新設間もない普通科高校であった。専門学科での授業に慣れた家庭科教師としては、実習が少なく物足りなかった。調理実習で、米をあらって、の指示に洗剤に手を伸ばす生徒がいたことにもショックを受けた。生活体験の乏しさを補うためにも実習回数を増やそう、連続授業が無理なら50分で完結するために実習のスピード化を図ろう、その方策の一つとして、各調理台に圧力鍋を購入してもらい、実習題材に選んだのが、桜餅だった。はやる気持ちで実習に臨んだ結果は、大失敗。自宅で使い慣れたメーカーの鍋であったが、容量が大きかったし、道明寺粉も初めての分量であった。予備実習を怠ったことが失態の最大の原因であり、職業人としての私はこんなに一生懸命やっている、そんな慢心に気付いた苦い体験であった。

以来、桜餅の季節には、大村はま先生の「教えるということ」を読み返すことにしている。少し長い引用になるが、紹介したい。

「私たち教師は、人間の力、人のよさ、子ども

への愛情、そういうものに自信を持ち過ぎないで、それはあたりまえと考えると、教師でないといけない、といった技術をじゅうぶんに練りたいものです。そして、自信をもち、(自分が偉いという自信ではなくて)教育の専門家として、このことをしていると言える、確かなものをもつ教師になりたいと思います。」ちなみに、大村先生は1970年に富山県で講演され、「しずかにしなさい」「わかりましたか？」は禁句、と新規採用教員にプロの教師としてあるべき姿を、厳しくかつ暖かく語りかけたと記録されている。

### 味覚の発達それとも退化？

食べ物の味には、代表的な五味(甘・酸・塩・苦・旨)があり、舌や口蓋にある味蕾から脳に伝わる。味蕾の発達は、感覚器官の中でも早く、妊娠15週頃の胎児期には味覚機能は完成していると考えられている。乳児の味蕾は大人の1.3倍、約1万2千個もあり、母乳にとけ込んでいる味や匂い、離乳食を通じて、家族の摂取食物を認知・記憶して、自分自身の食域を広げているのではないかといわれる。腐敗している可能性ありという警告でもある酸味や苦味に対して、なかなか乙な味と感じるのは、大人になった証し、つまり味蕾の退化ということになるのか。

味は口で感じ、おいしさは脳で知ると言われる。基本の五味だけでなく辛味、えぐ味、渋みなど複雑な味の食生活を失いたくないものである。また、おいしいと知覚するには、臭覚や視覚、温感などに加えて、誰とどのように食べたかなどの体験が大きく作用する。

今年もまた、桜餅は、甘いけれどほろ苦い味であった。

# 富山県小学校教育140年の歩み 下巻

## — 昭和期(戦後)から平成期まで —

教育資料部会

教育資料部会では、昨年度に引き続き、本県の小学校教育140年の歩みについて調査してきました。

今年度は、学制頒布以来、脈々と受け継がれてきた不易と流行の精神と「教育は人なり」を追究し続けて今日を迎えるまでの140年のうち、戦後約70年間の歩みと、小学校教育研究会・教育会の歴史を辿りました。

### ◇学校教育の姿

昭和20年8月15日、太平洋戦争は、ポツダム宣言を受諾して終戦を迎えます。膨大な犠牲者と損失の下、日本はゼロから再起の道を歩まなければなりません。その中で日本の将来を担う子どもたちのための新しい教育の第一歩が踏み出されたのです。

そのことを含め、終戦直後から平成の今日まで、“学習指導要領”の移り変わりを基に教育を節目ごとに見つめました。

戦後の教育は、大きく二分することができます。1つは、高度経済成長下の教育であり、1つは成熟社会下の教育です。

高度経済成長下の教育は、産業界に資するためにと次第に高学歴志向を生んでいきました。共働き家庭や核家族が一般化し、人口は都市に集中し生活も都市型志向になりました。それはまた社会の繁栄とともに、学力格差拡大や人間関係の希薄化等をも招きました。

成熟社会下の教育では、生涯学習や生涯スポーツの基盤作りとともにグローバル化し続ける社会に生きる力の育成を目指すようになってきました。人生という長いスパンの中での自分を作り上げていく時代が変わってきたのです。

学習指導要領の改訂での区分を中心にその時々の教育の特徴を整理してみました。

### ◇教員養成への道

明治5年(1872)に頒布された「学制」の

当面の課題は、近代的な教員養成でした。学制による小学校の設置は、人口600人に1校という構想で、富山県では、明治6年から実際に小学校の設置が始まり、その年の内にすでに271校の開校となりました。それに伴う教師の需要に応じるために、県が同年10月「新川県講習所」を開設したのが本県の教員養成の始まりとされています。

明治から現在までの教員養成の様子を、富山師範学校を中心に辿ってみました。

### ◇富山県小学校教育研究会・富山県教育会

戦後創設された富山県小学校教育研究会、明治期に私立教育会として発足して以来の富山県教育会、その理念と歴史をまとめました。

これで上・下巻と別冊校歴表合わせて3冊発刊となります。

加速してきた地球温暖化、東日本大地震とそれに伴うエネルギー問題、これからの防災教育の在り方、経済混乱、二極化する家計格差、学力格差、貧困、少子高齢化等の社会的問題や、携帯電話、ゲーム、ネット等の情報トラブル、いじめ、不登校、性犯罪の低年齢化etc。大変難しい時代を迎えている「今から」を考える材料にしていれば幸いです。

また、4月には、本館での特別展を企画しています。足をお運びくださるようお願いいたします。



# 富山県教育記念館1階 多目的ギャラリー 後 期 恒 例 展

## 第43回 県造形教育作品展



幼稚園・小学校・中学校・高等学校から素晴らしい作品が集まりました。それぞれの年代なりの精一杯の表現が輝いていました。



## アイデアロボットフェスタ ロボット展



ロボット教室では、小・中学生がロボットづくりに挑戦しました。



## 第23回 富山県中学校美術展

県内81校の中学校から、平明作品149点、立体作品48点の豊かな感性に溢れた秀作が集まりました。



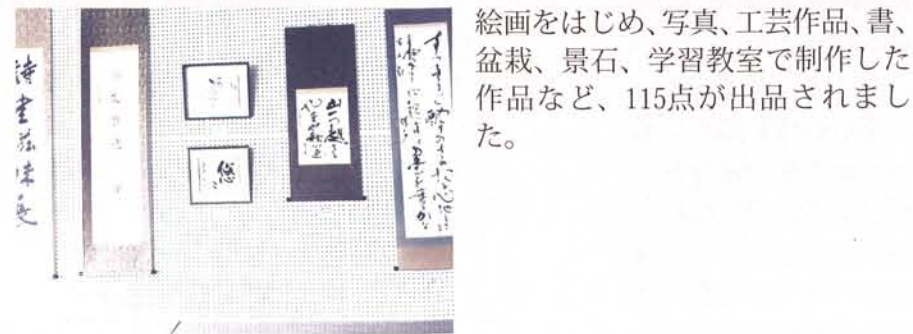
## 第30回 みんながんばってます作品展

県内13の特別支援学校が一堂に集い、力作を発表しました。

- 期間中3回鑑賞に来ました。来るたびに新しい発見がありパワーをいただきました。
- とてもかわいい作品があり、心がほっこりしました。学校ごとの個性も見えます。自分の子もチャレンジしてほしいと思いました。



## 第28回 教職員厚生会退職 厚生部富山支部会員作品展



絵画をはじめ、写真、工芸作品、書、盆栽、景石、学習教室で制作した作品など、115点が出品されました。

## 版造形教育作品 秀作回顧展

平成11年から平成14年までの秀作版画作品148点を展示しました。





ボランティア精神が  
息づく学校

射水市立新湊西部中学校



## <校区の概要>

本校は、射水市の北西部、庄川河口の右岸に位置し、北に富山湾が見渡せ、近くの内川沿いには風情あふれる街並みが続いている。

校区は、祭りに力を入れており、当日は生徒に活躍の場を与えるなど、地域の子どもは地域で育てようとする気風が強い地域である。

学校の教育活動にも極めて協力的であり、地域や保護者の学校教育に対する関心が高い。花壇づくりやボランティア活動にたくさんの地域の方に参加していただいている。

## <学校の概要>

現在の校舎は昭和62年に建てられた。多くの自然採光を取り入れる工夫、時計塔やスタンドグラス、外壁の色や一部に曲線を生かした外観など、当時としては、特徴的な建築デザインが施され、今日まで、生徒や保護者はもとより、地域の方々にも愛着をもって親しまれてきた。

その間、文部省より、平成2年に「奉仕等体験学習」、平成5年に「エイズ教育の推進」、平成10年に「武道指導の推進」、平成17年に、文部科学省より、「確かな学力向上のための実践研究事業」の指定を受け、取組を進めてきた。そして、平成24年度、「学力向上市町村教育委員会プラン研究事業」実践研究拠点校として、新湊小学校との小中連携を柱にした研究を行った。

生徒数減少のため、平成25年度より、奈古中学校と統合し、新湊西部中学校は、今年3月をもって66年の歴史に幕を下ろす。新校舎が完成する平成27年度までは現校舎で生活することになるが、校舎に感謝しながら、大切に使っていきたい。

## <本校の特色ある教育>

### ○学力向上

本校は、「学び合い」をキーワードに、生徒一人一人の確かな基礎的・基本的な学習内容の定着を目指し、確実な成果を上げてきている。これは、T T指導等による個別指導の充実や、昼・放課後や長期休業を利用した補充学習など、教師一人一人が生徒に寄り添い、諦めることなく、根気強い継続指導を長期間にわたり行ってきた成果である。小規模校ならではの取組もあったが、「学習内容が分かる」、「授業が楽しい」という生徒が着実に増えている。

### ○ボランティア活動

毎朝のボランティア、「創校ボランティア」をはじめとし、地域や校区の小学校と連携して庄川の河川敷を清掃する「七夕ボランティア」、地域の美化を目指した「FALL」ボランティアなど、長年にわたって生徒会が受け継ぎボランティア活動を行ってきた。その実践が地域環境の美化に功績があったと認められ、平成17年の環境大臣表彰をはじめ、数々の表彰を受けてきている。この伝統あるボランティア活動は、地域の方々の大きな支えのもとに成り立っており、地域と触れ合い、地域に根ざした活動となっている。

### ○全校合唱

月に1回、全校で歌う合唱曲を決め、昼休み等に練習し、その成果を発表する場を設けている。これは、生徒の一体感、所属感を育てることをねらいとし、学年の枠を超え、毎回リーダーが替わり、生徒会主催の集会を開いて実施している。観客は十数名の教員だけのときの方が多いが、生徒は美しく大きな歌声を学校中に響き渡らせている。この歌声は生徒の誇りであり、学校の元気の源である。

## わが校の歴史から



「強く 正しく 美しく」



### 射水市立奈古中学校

#### <校区の概要>

校区は旧新湊市の中心部に位置し、古くからの活気ある漁師町として栄えてきた。しかし、年々漁業従事者が減少するとともに、近年は、郊外に住居を求めて転居する人も多く、人口の減少と高齢化が進んでいる。現在は、新しい街づくりの施策により、公共施設や公共交通網の整備が進み、落ち着いた住みよい住宅街の佇まいを見せている。地域には、学校を大切にしていこうとする気運が溢れており、保護者共々、学校の教育活動に協力的である。また、伝統的な行事や文化を大切にす地域でもあり、春の獅子舞や秋の曳き山には、多くの生徒が参加している。

#### <学校の概要>

昭和50年4月1日、新湊東部中学校と新湊中部中学校との統合により、新湊市立奈古中学校が、生徒数771名で開校した。学校教育目標は、「強く 正しく 美しく」と定められ、開校当時から受け継がれている。

文部科学省（旧文部省）や県教育委員会からの研究指定も多く、「体力づくり研究校」「教育課程研究校」「生徒指導総合推進校」「学力向上実践研究拠点校」など、多くの研究実践を行ってきた。また、日中小・中学校交流推進校委託事業の委託を受け、中国遼寧省実験中学と姉妹学校の協定を結び、互いに学校訪問をするなど10年以上に亘って交流を続けた。

部活動が盛んで、文化部・運動部とも優秀な成績を収めている。中部日本吹奏楽コンクール本大会では、2回優勝し、文部大臣奨励賞を受賞している。また、陸上部、剣道部、女子バレーボール部、女子バスケットボール部、野球部などが、全国大会、北信越大会、中部日本大会等に出場している。

開校当初は、800人前後で推移した生徒数が、平成に入って激減し、現在は、159名と

その当時の五分の一程度となっている。本校は、24年度末をもって閉校し、4月、新湊西部中学校と統合し、「新湊中学校」として新たに開校する。現校舎は、取り壊されるが、その跡地に2年後「新湊中学校」の新校舎が完成する運びとなっている。

#### <特色ある取組>

##### ○生徒会活動の充実

愛校心や学校への所属感を深め、奈古中学校の伝統を守り、奈古中学校の最後を飾る。

ボランティア活動を通して社会参加への意欲を高め、地域に感謝する。

##### 1 地域への発信

学友区へ「奈古の友」(生徒会だより)を配布し、学校の様子や生徒の感想を載せる。

##### 2 好ましい人間関係づくり

- ・気持ちのよい挨拶を交わす習慣づくり
- ・いじめのない環境づくり

##### 3 ボランティア活動の充実

- ・アルミ缶、古切手等の収集活動の活性化
- ・JRC委員会主催事業への参加人数増加

##### 4 奈古中学校の最後を飾る学校行事づくり

- ・生徒主体の学校行事(運動会、文化祭等)

##### 5 互いに学び合う環境づくり

- ・奈古勉タイムの充実

##### ○PTA活動の充実

##### 1 家庭・学校・地域一体となった健全育成活動

- ・夏休みの巡回パトロール
- ・教育講演会(携帯電話、薬物乱用防止等)
- ・毎月のあいさつ運動

##### 2 地域と連携した親子奉仕活動

- ・年3回のリサイクルグリーン(資源回収)
- ・清掃活動(漁港、内川、グラウンド除草等)

##### 3 会員の連帯感を深める活動

- ・バザーでの手作りうどんの販売活動
- ・年3回の広報誌「あゆ」の発行

# 「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

平成25年2月15日(金) 富山県教育記念館 15:00～

## 入善町立上青小学校

地域の自然・文化・人にかかわり、地域を愛する子どもを育てる一ぼくたち、わたしたち沢スギ守り隊ー



木道をみがく

## 富山市立長岡小学校

地域の歴史、自然、文化、人にかかわる活動を通して、そのよさや伝統を感じ取り、自分たちのふるさとに愛着や誇りをもつ子どもの育成



白ネギの収穫

## 高岡市立戸出西部小学校

戸出野に誇りと愛着をもち、心豊かに生きる子どもの育成



チューリップの花摘み

## 高岡市立成美小学校

I LOVE SEIBI  
災害に負けない町づくりに尽くそう



保護者との避難訓練

## 氷見市立灘浦小学校

郷土を愛し、地域と関わろうとする子どもの育成ー「灘小ふれあいまつり」を通してー



地域の踊りを踊る

あ  
と  
が  
き

今回の号も、統廃合する学校の歴史を掲載することになりました。複雑な想いと同時に、いつまでも記憶に残ってほしいとの願いをもちました。



## 平成25年度の展示計画

- ◆特別展「富山県小学校教育 140年の歩み (後編)」
- ◆第4回「児童・生徒による ものづくり展」
- ◆第11回「さんすう・ワールド展」
- ◆第10回「子どもの目・自然不思議発見写真展」
- ◆第29回「教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
- ◆第31回「特別支援学校・みんながんばってます作品展」
- ◆第44回「富山県造形教育作品展」
- ◆第9回「アイデア・ロボット・フェスタ」ロボット展
- ◆第24回「富山県中学校美術展」
- ◆第7回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」

- 4月25日(木)～6月2日(日)
- 6月13日(木)～7月14日(日)
- 7月25日(木)～8月25日(日)
- 9月5日(木)～10月6日(日)
- 10月11日(金)～10月20日(日)
- 10月31日(木)～11月17日(日)
- 11月24日(日)～12月8日(日)
- 12月13日(金)～1月19日(日)
- 1月30日(木)～2月16日(日)
- 2月27日(木)～4月6日(日)